

# 平成22年ホヤ類調査結果速報 No. 10

平成22年12月22日  
北海道立総合研究機構函館水産試験場  
渡島北部地区水産技術普及指導所  
胆振地区水産技術普及指導所

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

11月16日～12月16日に、渡島北部地区および胆振地区において、ホタテガイの付着物調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

## 結果概要

- ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着量が増加しています。ヨーロッパザラボヤの成長に伴い、付着物の中でヨーロッパザラボヤが優占しつつあります。
- ヨーロッパザラボヤの付着量は八雲地区が最も多く、次いで礼文地区、長万部地区となっており、湾奥部で多くなっています。
- 貝洗いを実施したホタテガイでは、ヨーロッパザラボヤの付着量は概ね1/10以下となっており、貝洗いがヨーロッパザラボヤの除去に有効であることが確認できます。
- 昨年までの調査で、ホタテガイ1枚あたりのヨーロッパザラボヤ付着量は、2～3月にピークに達することが明らかとなっています。今後もヨーロッパザラボヤの成長に伴い付着量は増加すると予測されます。付着状況と出荷予定時期を考慮し、必要に応じて貝洗い等の対策をご検討下さい。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場  
TEL：0138-57-5998 FAX：0138-57-5991

# 1 : 渡島北部、胆振管内調査結果

[調査月日 : 11月16日~12月16日]

図1 各地区の種類別付着物重量(11/16~12/16)

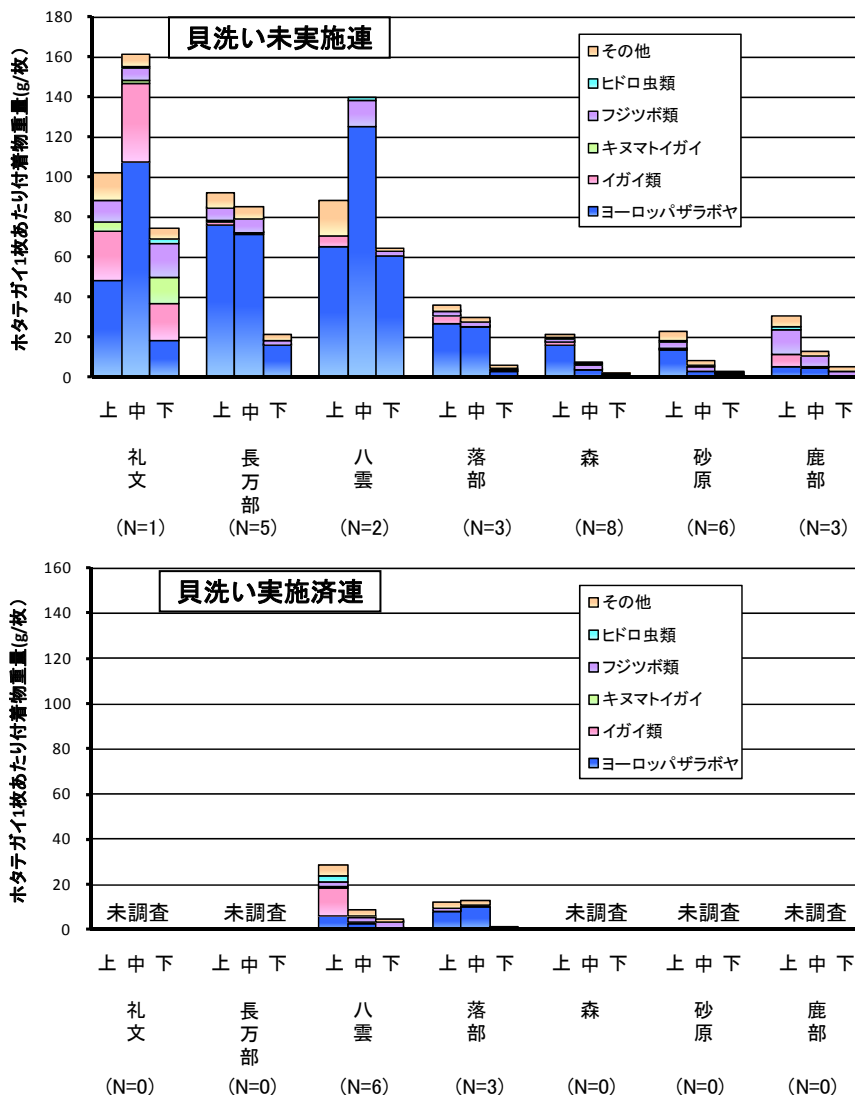
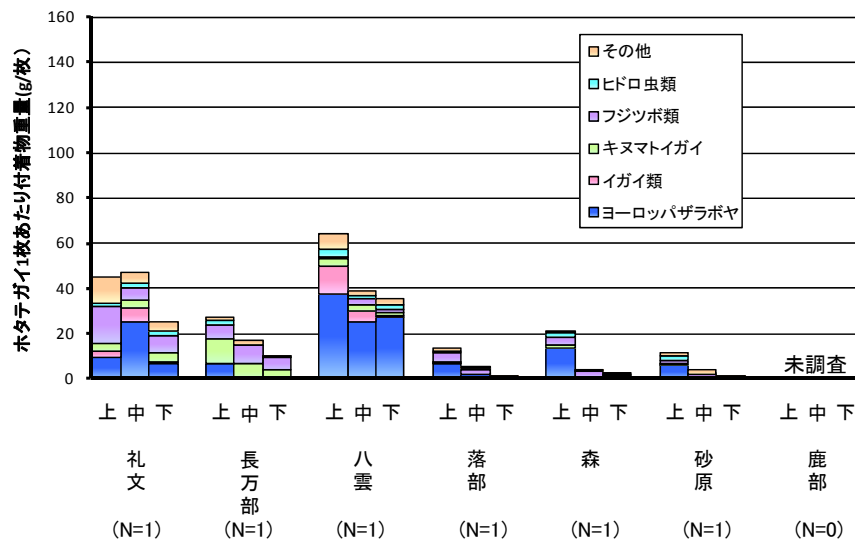


図2 各地区の種類別付着物重量(10/12~18) (10月調査、参考)



※図中の「上中下」は、各連の上層、中層、下層から採取したことを示します。  
地区名の下に括弧内の数字は、調査を実施した連数を示しています。

## 各地区のまとめ

[礼文地区] (調査月日 : 12 月 16 日)

全地区の中で付着物が最も多く、そのうち 50%以上をヨーロッパザラボヤが占めています (図 1 上)。ヨーロッパザラボヤの付着量は、同地区前月の調査結果(ホヤ類調査結果速報 No. 8 参照)と比べて大きく増加しており、これは付着しているヨーロッパザラボヤの成長によるものと考えられます。今後も 2~3 月頃まで、ヨーロッパザラボヤの成長に伴う付着重量の増加が予測されます。付着状況と出荷予定時期を考慮し、必要に応じて貝洗い等の対策をご検討下さい。

[長万部地区] (調査月日 : 11 月 25 日)

付着物の 80%以上をヨーロッパザラボヤが占めています (図 1 上)。上層、中層の付着が多く、上層のヨーロッパザラボヤの付着量は、全地区の中で最も多くなっています。ヨーロッパザラボヤの付着量は 10 月の調査結果 (図 2) と比べて大きく増加しています。今後もヨーロッパザラボヤの成長に伴い付着重量が増加すると予測されるので、付着状況と出荷予定時期を考慮し、必要に応じて貝洗い等の対策をご検討下さい。

[八雲地区] (調査月日 : 11 月 18 日)

全地区で最もヨーロッパザラボヤの付着量が多く、付着物の約 85%をヨーロッパザラボヤが占めています (図 1 上)。他地区に比べ、中層、下層の付着量が多いのが特徴で、中層、下層の付着量は全地区の中で最も多くなっています。一方、貝洗いを実施したホタテガイでは、ヨーロッパザラボヤの付着量は、貝洗い未実施の場合の 1/10 以下に減少しており、貝洗いによる対策が有効です (図 1 下)。なお、今年度のヨーロッパザラボヤの付着時期は昨年より遅かったと見られ、早い時期に貝洗いを実施した連には、再びヨーロッパザラボヤが付着している可能性がありますので、十分に注意してください。

[落部地区] (調査月日 : 11 月 26 日)

付着物の 70%以上をヨーロッパザラボヤが占めています (図 1 上)。ヨーロッパザラボヤの付着量は、湾奥側の地区 (八雲地区、長万部地区) より少ないです。それでも連によっては、局所的にヨーロッパザラボヤが大量に付着している場合もあります。付着状況は地区内でもバラツキがありますので、連ごとの付着状況と出荷予定時期を考慮し、必要に応じて貝洗い等の対策をご検討下さい。

[森地区] (調査月日: 11月16日) [砂原地区] (調査月日: 11月22日)

[鹿部地区] (調査月日: 12月8日)

湾口に近い各地区については、付着物に占めるヨーロッパザラボヤの割合は高いものの、湾奥部と比較して付着物量自体が少なく、ヨーロッパザラボヤの付着量も少ない傾向にあります(図1上)。ヨーロッパザラボヤは波当たりの弱い静穏な海域に群生するとされており、生息場所に対するヨーロッパザラボヤの特性が、噴火湾内の地区間における付着量の違いと関係しているのかもしれませんが。ただ、湾口に近い地区でも連によっては、局所的にヨーロッパザラボヤが大量に付着している場合もあります。連ごとの付着状況と出荷予定時期を考慮し、必要に応じて貝洗い等の対策をご検討下さい。

## 2: 噴火湾のザラボヤについて(参考)

平成20年に噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着し、問題となっている「ザラボヤ」は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが、東邦大学と函館水産試験場の共同研究で明らかとなりました。在来種と区別するため、本速報ではヨーロッパザラボヤという名称を用いています。

和名: ヨーロッパザラボヤ

学名: アスキジエラ・アスペルサ

*Ascidrella aspersa* (Müller 1776)

原産地: 大西洋(北欧~北西アフリカ沿岸)、  
バルト海および地中海

